

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名: チキケアセンター河内長野

作成者: 三瀬 賢

作成日: 2023年8月5日

運営推進会議における評価実施日: 2023年8月17日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所自己評価	記述		
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	玄関やカンファレンスルームに掲示しており、理念に沿ったケアの実践を行っている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	B	コロナの影響で、日常的な関わりは少ないが、現状と向き合いながら、自治会の催し等に参加していただけるよう、取り組んでいる。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	B	自治会会長、民生委員、いちご会長、市役所職員の方々が出席される。運営推進会議で施設の現状、活動状況を報告し意見を頂きサービス向上に努めている		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B	定期的開催されるグループホーム部会への参加や運営推進会議等での担当者と共に相談や意見交換をしている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A	毎月、身体拘束廃止についての事例や検討会を開催し、職員一人ひとりがケアの実践に取り組んでいる。	A	毎回、会議にて報告出来ている。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	A	『虐待しない、させない、見逃さない』の高齢者虐待防止スローガンを掲げ、定期的な勉強会を開催し、虐待防止に努めている。	A	毎回、会議にて報告出来ている。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解を深め、相談時や実施において支援出来る様努めている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A	契約前後には利用者様、家族様の要望を聞いて充分な説明を行い、安心して利用していただけるよう努めている。退去に際しては、ご本人様にとって何が最良なのか、退去に向けた相談を受けている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	B	日頃のケアを通じて、利用者、家族等から気軽に相談できる雰囲気にも努めている。	A	利用者、家族の意見を反映出来ている。今後、市役所の介護保険課に相談に応じて頂けることへの事。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B	ホーム全体の会議開催時の意見を反映できるように努めている。また随時個別面談もしている。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A	介護職員としての基本的知識を習得し最終的には国家資格である介護福祉士のレベルまで技能、能力を身に付け、各ステップに応じて昇給するキャリアアップ制度があり、やりがい、向上心を持って働ける環境を整えている。	A	充分に出来ている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会を確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	法人内外の研修にスタッフが参加できるよう勤務調整を行ったり、委員会や行事の計画等の運営に関しても、一人ひとりが役割を持って取り組めるよう努めている。	B	職員からの受講等の考えはなるのか？管理者側から声掛けはしているため、今後も取り組んでいく。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	B	管理者については、市のグループホーム部会やケアネットワーク会議にて、同業者との関わりがあるが、職員については、そういった機会が多くはない。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A	日常生活を共に過ごし、その方の心のパートナーとして寄り添い、共に喜び、共に笑い、人と人との心のふれあいを大切に利用者様との関係を築いている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	B	制限があるものの、面会や電話にて家族等との関係が途切れないよう、支援に努めている。また、外出についても、出来る限り要望に応えられるよう努めている。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: チイケアセンター河内長野

作成者: 三瀬 賢

作成日: 2023年8月5日

運営推進会議における評価実施日: 2023年8月17日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A	日常的にご本人の出来る事や出来ない事、違ってみたい事を日常会話の中から引き出すよう努めている。意思を伝えられない方には家族様からの情報を得ている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	作成前にサービス担当者会議を開き本人様や家族様からの意見や希望を聞き、カンファレンス、モニタリングなどでスタッフが意見を出し合いプランの変更を随時行っている。	A	十分に出来ている。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A	個人別にファイルを作成し日々の活動や生活状況、心身の状態を記録している。また情報を共有し、日々の実践や介護計画に活かしている。	A	十分に出来ている。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	B	本人様や家族の希望、要望に出来る限り柔軟な対応を行い、その時々本人様の思いを少しでも実現できるよう、努めている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A	医療職・訪問理容・食材配達・送迎等、多職種との協働や地域の催しに参加出来るよう努めている。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	往診時必要に応じて家族様との面談、相談を受け、本人様および家族様の希望がかなう適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医と連携をとり支援している。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	入院の際には病院関係者と連携し、情報交換や相談に努めている。医師からの病状説明があるときは家族様同意の基、同席させていただき、一日でも早くホームに戻れるように支援している。	A	十分に出来ている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	重度化および看取りが必要になった場合は入居者様本人と身元引受け人の意思を再度、確認させていただきホームで出来る限りの支援を行っている。また、今後、望まれる医療について家族様と提携医との面談を随時行っている。	A	十分に出来ている。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	「緊急時対応マニュアル」を作成し、急変時や事故発生時にいつでも対応できるよう講習会などにも参加し応急処置について定期的に勉強会を行っている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	災害対策マニュアルに基づき、対策について意識を高め、避難訓練を年2回実施している。	B	マニュアルに関して、職員は把握出来ているのか？共有や勉強会等、今後の課題である。非常食の備蓄はあるのか？充分にあり。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

事業所名: チキアセンター河内長野

作成者: 三瀬 賢

作成日: 2023年8月5日

運営推進会議における評価実施日: 2023年8月17日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	外部評価	結果
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	生活歴などを把握、情報共有し対応には十分な配慮を行っている。声掛け対応が不適切な時はその都度スタッフ間でお互いを注意し合える体制作りに取り組んでいる。	B	十分に出来ている。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	出来る限り住宅での生活を反映させた形で通して頂けるよう努めている。ご本人のペースで思い思いの日々を過せるよう、努めている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A	ご利用者様の好み食事、栄養バランスや形態を考慮している。後片付けや定期的な調理レクリエーションを実施し、役割を持ちつつ、楽しんで食事が出来るよう支援している。	A	十分に出来ている。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	食事、水分チェック表の活用により、ご利用者様の摂取量を確認している。摂取後の少ない時は、その日の体調や好みに応じて食べ易い食事や飲み物を提供している。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	食後は必ず歯磨き、うがいをご本人の状況に合わせて支援を行い、口腔内の清潔保持に努めている。また週に1回、訪問歯科の診療を受けている。	A	十分に出来ている。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A	排泄チェック表を利用して、排泄リズムを把握、自尊心を傷つけない声掛けや個室に合わせたトイレ誘導の対応を行っている。	A	十分に出来ている。
32	入浴を楽しむことのできる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B	入浴前の健康チェックを行い、体調に留意しながら入浴していただいている。また気持ちよく入浴していただけるよう声掛けの工夫やタイミングを図り、入浴に努めている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休憩したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	生活習慣の把握や毎日の体調管理を行い、個々の状況に応じて日常生活に、いつでも休息を取れる体制で支援している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	既往歴や現在の心身状態を把握し、薬の説明書の活用や必要時、医師・薬剤師から薬の効果や副作用について説明を受け理解しスタッフ間で共有している。服薬管理の徹底、症状の変化に努めている。	A	十分に出来ている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A	生活歴や家族様の聞き取りにより趣味や得意な事などの情報を得て、張りのある生活が出来るよう支援している。また役割を持つ事により楽しみが増え、活気のある生活が送れるよう支援している。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C	コロナの影響で、日常的な外出は控えているが、出来る限り、近隣への散歩や季節を感じて頂けるよう、お花見や紅葉見物に出掛けられるよう支援している。		
37	お金の所持や使うことのできる支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	C	1万円をお小遣いとして家族様より預っている。コロナの影響で、買物の機会が少なくなっているが、出来る限り、支払いなど本人で行えるよう支援している。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A	ご家族、ご本人からの電話や手紙のやり取りが出来るように、支援している。また、職員とご家族との電話のやり取りの際も、本人と話しが出来るよう、適宜、声掛けしている。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	リビング兼食堂、居室の窓から外の景色がいつでも見ることができ、一日の時間の流れや季節を感じていただいている。食事時には音楽を流し、少しでも安らげる工夫をしている。	A	十分に出来ている。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: チイケアセンター河内長野

作成者: 三瀬 賢

作成日: 2023年8月5日

運営推進会議における評価実施日: 2023年8月17日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの網掛け部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A	日常会話の中から、本人の思いを傾聴し、実現できるよう努めている。また、思いを伝える事が難しい利用者様に関しては、背景や思いをくみ取り、支援している。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	日常的な関わりや家族様からの情報をアセスメントし、ケア・支援に繋げている。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A	日々の管理や環境調整、医療職との協働により、安全且つ健康的に過ごして頂けるよう、ケア・支援に努めている。	A	充分に出来ている。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A	今までの生活習慣を継続出来るよう、本人の思いを大切にしながら、ご家族からの情報を基に、ケア・支援に繋げている。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自宅等)に持つことができている	B	本人にとって、なじみのものは、身近に持つことが出来るよう配慮している。	B	状態に応じて、対応出来ている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	A	自由な出入りは難しいものの、出来る限り実現できるよう支援している。また催事に限らず、積極的に参加できるよう、声掛けしている。		
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	A	日常的な関わりの中で、役割を持っていたり、得意なことやわからないことをサポートし、自立支援に努めている。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	ご利用者同士の会話や職員とのコミュニケーションを大切に、個々の活動の機会を多く持たせていただくよう、努めている。	B	共同生活の中で、活動を好む方、嫌う方がおられ、今後の課題となっている。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	C	コロナの影響で、交流の機会が少ないので、今後、状況に応じて、地域との関わりが多く持てるように支援する必要がある。		
49	総合	本人は、このGHに在ること、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	A	認知症であっても、健康で楽しみながら、安心して暮らしていけるよう、支援している。	A	充分に出来ている。

総評

- 新型コロナウイルスの影響もあり、十分な活動や支援が出来ていない部分や地域との関わりを多く持っていたり、今後の課題となっている。
- 引き続き、感染症対策に取り組みながら、ご利用者様、ご家族様が、健康で安心して、過ごしていただけるよう、ケア・支援に努めていく。
- 外部評価において、外部の方にホームの方も見学していただく必要がある。見た事がない人に関しては、評価し辛い部分もある。家族様の参加も必要。
- 答えられない質問も多く、地域住民に向けた質問や家族に向けた質問を分ける必要がある。
- 万一の災害時の対応についても、明確にしていく必要がある。災害が予測出来る時は、夜間の職員の配置についても、再考する必要がある。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

- 新型コロナウイルスの影響もあり、十分な活動や支援が出来ていない部分や地域との関わりを多く持っていたり、今後の課題となっている。
- 引き続き、感染症対策に取り組みながら、ご利用者様、ご家族様が、健康で安心して、過ごしていただけるよう、ケア・支援に努めていく。
- 外部評価において、外部の方にホームの方も見学していただく必要がある。見た事がない人に関しては、評価し辛い部分もある。家族様の参加も必要。
- 答えられない質問も多く、地域住民に向けた質問や家族に向けた質問を分ける必要がある。
- 万一の災害時の対応についても、明確にしていく必要がある。災害が予測出来る時は、夜間の職員の配置についても、再考する必要がある。

参加者サイン欄

細川 長裕 (主任) 下神 幸博 (副主任) 友田 総次郎 (ケアマネ) 三瀬 賢 (職員) 川見 さら (職員)